

6月9日は創立記念日！

笛吹高等学校同窓会事務局校史資料室

6月9日は「笛吹高校」命名の日

今から131年前の明治28(1895)年4月、やがて笛吹高校に成長していくことになる小さな種子がこの地域に播かれました。その名は山梨養蚕教習所。全国屈指の養蚕地帯であったこの地域を担う人材育成を期して創設されました。「生徒は13名に達した」と記録にあります。

私たちの笛吹高校は右図のように幾多の変遷を経て、平成22(2010)年4月に開校しました。笛吹高校としては今年16年目ですが、校史的には創立131周年目を迎えています。

創立記念日(6月9日)の由来：平成21(2009)年の同日、山梨県教委が峡東地域に開校する新設高(旧石和高校+山梨園芸高校)を「笛吹高校」と命名・発表したことに因みます。

ここでは、開校初期の記事等をいくつか紹介し、生徒の皆さんが母校や自らの将来展望などを思う参考に供したいと思います。

笛吹高校の開校

平成22(2010)年4月、旧石和高校と山梨園芸高校がほぼ半世紀ぶりに再統合され、普通科3、食品化学科1、果樹園芸科1、総合学科3の計8学級、定員1学年300名(当時)の県下最大規模の総合制笛吹高校として開校しました。笛吹高校の開校式・第1回入学式は同年4月8日山梨園芸高校体育館にて行われました(右上図)。平成23年度末には、石和高校・山梨園芸高校の開校式が行われ、2校の校旗は笛吹高校の後輩に引き継がれました(右下図)。笛吹高校独り立ちの瞬間でした。

※この資料の詳しい内容は、『地域と共に一創立130周年記念誌』(令和7年刊)等をご覧ください。



笛吹高開校式(平成22.4.8,山梨園芸高体育館)



石和高・山梨園芸高開校式(平成24.3.1,笛吹高)
(左)上空より望む笛吹高全景



石和・園芸高統合後の新設校

校名は「笛吹高」

県教委は9日、来年4月に笛吹市の石和・山梨園芸両高を統廃合し、石和敷地内に開校する新設校の校名を「笛吹高」とすることを発表した。6月定例県議会に關係する条例改正案を提出し、議決を経て正式に決定する。

新設校の名称は3月10日から4月24日まで公募。4844件、1014種類の応募があった。この中から、県教委が「笛吹」のほか、「峽東」「笛吹清流」「東陽」「翔央」の4つに絞り込み、地元や関係者から意見を聞いた上で、新設校は普通、食品化学、

県教委は9日、来年4月に笛吹市の石和・山梨園芸両高を統廃合し、石和敷地内に開校する新設校の校名を「笛吹高」とすることを発表した。6月定例県議会に關係する条例改正案を提出し、議決を経て正式に決定する。

「笛吹」は2番目に多い600件だった。

県教委新しい学校づくり推進室は「笛吹は市名にもなっており、地域に親しまれていて、県立高は地域にちなんだ名称が多いことも、決定理由の一つ」と説明している。

心算数では「石和園芸」が最も多い954件に上ったが、「旧校のイメージが残る」（県教委）として、選択肢から外した。

「笛吹」は2番目に多い600件だった。

県教委新しい学校づくり推進室は「笛吹は市名にもなっており、地域に親しまれていて、県立高は地域にちなんだ名称が多いことも、決定理由の一つ」と説明している。

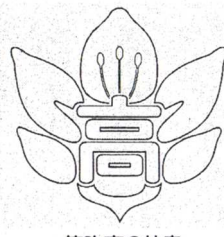
校名決定（平成21年6月10日付 山日（部分））

笛吹高の校章発表

特産品モチーフの花弁を表現

県教委は16日、来年4月に石和・山梨園芸両高を統廃合し、石和敷地内に開校する笛吹高の校章を発表した。同校が設置される笛吹市の特産品である桃の花をモチーフにしたデザイン。「高」の文字を包むように、5枚の花弁があらわれている。

県教委新しい学校づくり推進室は、「春に桃の木にたくさん花が咲く様子をイメージした。若者が大勢集い、大きな美を付けてほしいという願いを表現した」としている。色については、現在検討中という。校章は、県内の高校の美術担当教員でつくる「県高校教育研究会芸術科部会美術工芸研究会」が、県教委の委託を受けてデザインした。



笛吹高の校章

校章発表（平成21年12月17日付 山日）

笛吹高初の入学式

1期生30人、決意新た

石和、山梨園芸両高を統廃合して開校した笛吹高（松本 純也校長）は8日、初めての1期生としての自覚と誇りを入学式で山梨園芸高体育館で行った。

笛吹高1期生となる新入生は普通科101人、食品化学科40人、果樹園芸科40人、総合学科100人の計301人。松本校長は式辞で「新設校の完成が来年3月になるなど何かと不便が付きまとうが、学校創設期ならではの活気とエネルギーでカバーしたい。1期生には素晴らしい学校にするための先導者となってほしい」と話した。

同日は、県内の県立高（定時含む）28校と公立校の校で入学式が行われ、計6007人が高校生活をスタートさせた。

誓いの言葉を述べる新入生代表の米山葵さん（笛吹市石和町中）

第1期生入学（平成22年4月9日付 山日）



校舎の建設（平成23年3月24日竣工）



正門の松（大正8年植栽 郡立山梨蚕業学校時代）
種名リギダマツ。1世紀以上本校を見守るソボルツリー

この歌と歴史作る

レミオロメン・藤巻さん作詞作曲 始業式で合唱へ

笛吹高校歌を生徒にお披露目

春は桃花の咲くを、香雪を胸に歩み、夏の爽やかな、歴史の歩み、汗のしほむグラウンドに、涙の意味を教われば、笛吹高校、心の友よ、秋は大地根ををし、雪は静かにも、冬は散るルプスの白く雄々しき姿、世界の監督と共々、試験のやうに、笛吹高校、誇りを胸に、郷土に愛を育んで、夢校方へ羽ばたかせ、その道を拓く心は、広く深く、心の扉や世界の扉、結んで響かせる和の力、笛吹高校、輝く命、この一瞬にこそ光輝く

笛吹出身の人気バンド「レミオロメン」のボーカリスト藤巻太人氏が作詞作曲し、笛吹高校の校歌が8日、金沢生徒会に初めて披露された。ふさふさの思いが込められた歌詞とメロディの良し曲調で、きこせといふ人々の生徒は「もう練習して藤巻さんに聞かしてほしい」と希望を述べた。

（佐藤 隆）

歌詞には、山梨の四季折々の風景とともに、世界の監督と共々、試験のやうに、夢校方へ羽ばたかせ、この一瞬にこそ光輝く

（S）一瞬にこそ光輝く

④歌詞や楽譜を確かめながら、新しい校歌の練習をする笛吹校の生徒たち

⑤レミオロメンに手紙を書いた秋山幸美さん（左）と永上瞳さん（右）

笛吹市石和町

校歌披露（平成23年3月8日付 朝日（山梨版）（部分））